

4. 環境審議会評価

基本目標1 自然環境を守り、育てるまち

《意見》

- ・町の特産物である玉葱やレンコンなどの野菜残さについては、適正な処理の方法を検討する必要がある。
- ・多くの農産物が生産されることに伴い、廃棄物などの問題が生じることを課題として考えていくべき。

【評価】

町の特産物である玉葱やレンコンは全国有数の産地を形成しているが、そこから生じる野菜残さは事業系一般廃棄物に区分される。景観の保全や産地としてのイメージを損なわないためにも、引き続き、適正処理の推進・指導に努める必要がある。

また、不法投棄対策については、新たに設置された白石町不法投棄防止対策協議会と連携し、広報や看板設置等による啓発・防止活動に努めることが求められる。

町の実施状況では、集落営農組合の法人化や生物多様性保全の普及・啓発などについては進捗が見られる。今後も自然環境の保全と育成を目指した、更なる取組の充実が望まれる。

基本目標2 快適な生活環境を確保するまち

《意見》

- ・白石平野特有の粘土質土壌のため、町内の水路や河川の水が濁って見えるのではないかと。水質自体には問題が無いことを町民の方にアピールしていくべき。
- ・町内の殆どの水路がコンクリート張りになっており、また地形的な要因で他所から水が来ないため、水路や河川の水質浄化は難しいのではないかと。

【評価】

水資源に乏しい本町は、水循環による水路や河川の水質改善が難しい立地にある。しかしながら、嘉瀬川からの通水開始以降、一部の農業用水路においては水質改善の兆しも見られる。

河川等における水質汚濁は、一般家庭等からの排水も原因の一つとされており、一般家庭や事業所の下水道施設への接続及び浄化槽の設置について継続して推進を図るとともに、家庭でできる水質改善の方法などの周知・啓発活動を行っていく必要がある。

町の実施状況では、河川等における水質の環境基準達成率や空き家バンク制度の創設による定住促進・空き家対策など、快適な生活環境の確保に向けた取組の着実な進展がみられる。

基本目標3 資源が循環するまち

《意見》

- ・地区の資源ごみ回収量に応じ、町から報償費が支払われていることなどのPRを行い、町民にもっと協力を呼びかけたらどうか。
- ・古紙・古布など、町の資源ごみのリサイクル率が向上する様な取組が必要ではないか。

【評価】

町の取組状況では、一人一日平均ごみ排出量が前年度より増加しており、排出量抑制のため、一層のごみ分別・再資源化の推進が必要である。

ごみの減量化対策には、町民や事業者の理解と協力が必要であり、ごみの分別方法などの周知徹底や古紙・古布、ペットボトル・カン・びん等の資源ごみに対するリサイクル意識向上のための取組が必要である。

また、限りある天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減する循環型社会の実現に向け、家庭から出た生ごみの堆肥化や3R※の推進など、資源の循環・有効活用の取組が求められる。

※3R（スリーアール）とは、リデュース（Reduce：発生抑制）、リユース（Reuse：再利用）、リサイクル（Recycle：再生利用）の3つのRの総称。

基本目標4 地球温暖化対策を推進するまち

《意見》

- ・地球温暖化対策は、一人一人が心掛けて取組むことが重要である。
- ・道の駅がオープン予定であり、地元産の食材を利用した加工品づくりや地産地消の取組など、環境対策に繋げることができないか。

【評価】

町の取組状況では、役場庁舎や保育所における緑のカーテン設置や省エネ講座の開催などによる地球温暖化防止のための取組が実践されている。

地球温暖化対策の推進には、町民や事業者個々の環境に対する意識やモラルの向上が必要不可欠であり、家庭からはじめる環境にやさしい取組や省エネルギー・節電の取組など、温室効果ガス排出量削減のための具体的な方策について、一層の啓蒙・周知を図っていくことが重要である。

今後は、地場産品を活用した地産地消など、地球温暖化防止に繋がる取組の進展が期待される。

基本目標5 環境学習、環境保全活動を推進するまち

《意見》

- ・町内の所々で稲わらや麦わらの野焼き、水路法面への野菜残さなどの投棄が見受けられる。このような状況を町も事業者も町民も共有し、撲滅に取り組んでいくべきではないか。
- ・町が積極的に出前講座を実施することで、環境問題などに対する町民の理解や知識が深まるのではないか。

【評価】

環境学習、環境保全活動を推進するまちの実現には、環境やごみの問題について、本町が置かれている現状や課題を町民・事業者・町が相互に共有し、連携する協働の取組が肝要である。

町の取組状況では、環境学習の一環として、おどぼう倶楽部の野外・自然体験活動を通じた環境学習や小学生を対象とした下水道施設見学など、子ども達への環境教育・学習機会の提供に努められている。

今後は町民・事業者の環境保全に関する理解や意識高揚のため、環境やごみに関する情報発信や講座内容の充実など、環境保全意識を産みはぐくむための取組が求められる。

□エコクッキング教室（7/24 開催）
（於：白石町総合センター 農産加工室）



□環境審議会での審議（10/17 開催）
（於：白石町役場 大会議室）

